

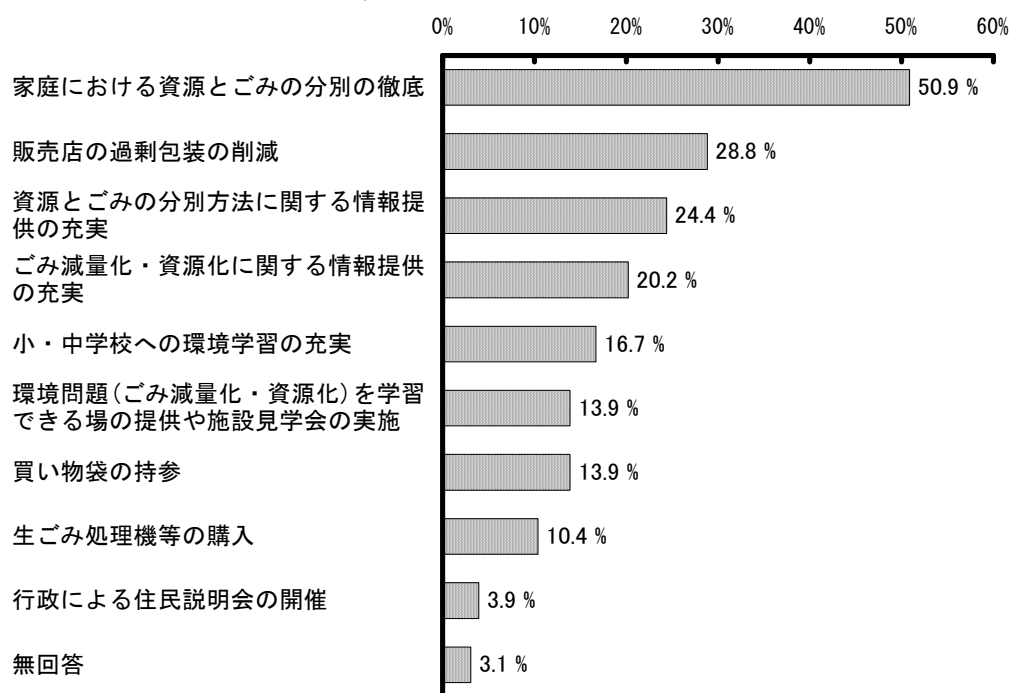
## 8 環境

### (1) ごみの減量化・資源化の推進 (A: 問 14)

問. ごみの減量化・資源化を推進する上で、特に重要だと思うことは何ですか。(2つまで)

図8-1-1 ごみの減量化・資源化の推進

n=1,270



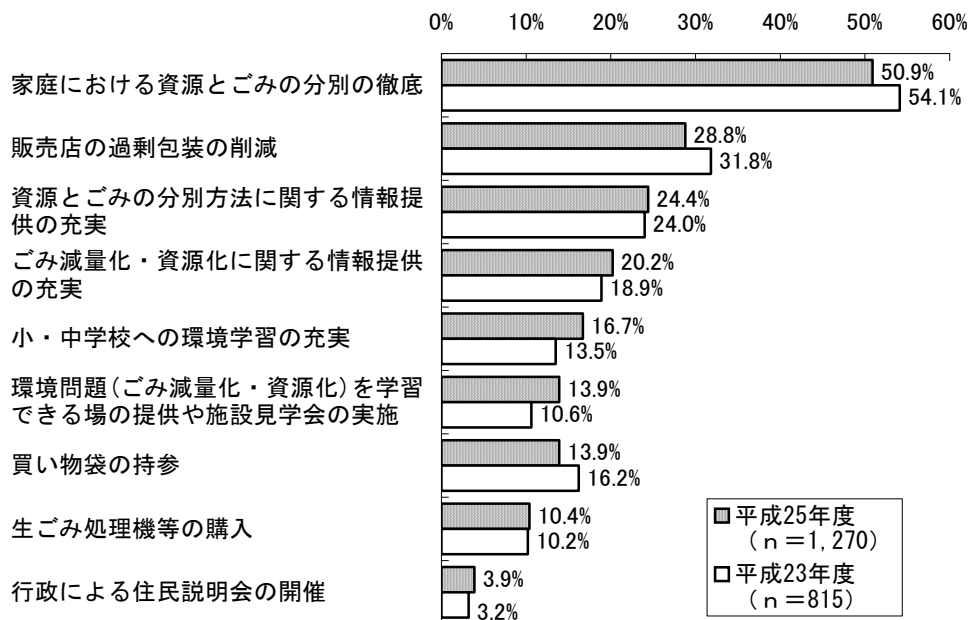
#### 【全体】

ごみの減量化・資源化システムを推進する上で重要と思うことについて聞いたところ、「家庭における資源とごみの分別の徹底」(50.9%)が約5割で最も高くなっている。次いで、「販売店の過剰包装の削減」(28.8%)、「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」(24.4%)、「ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実」(20.2%)となっている。

【経年変化】

前回調査との比較では「買い物袋の持参」が順位を下げたが、数值的に大きな変化は見られない。

図8-1-2 ごみの減量化・資源化の推進—経年変化



【属性別】

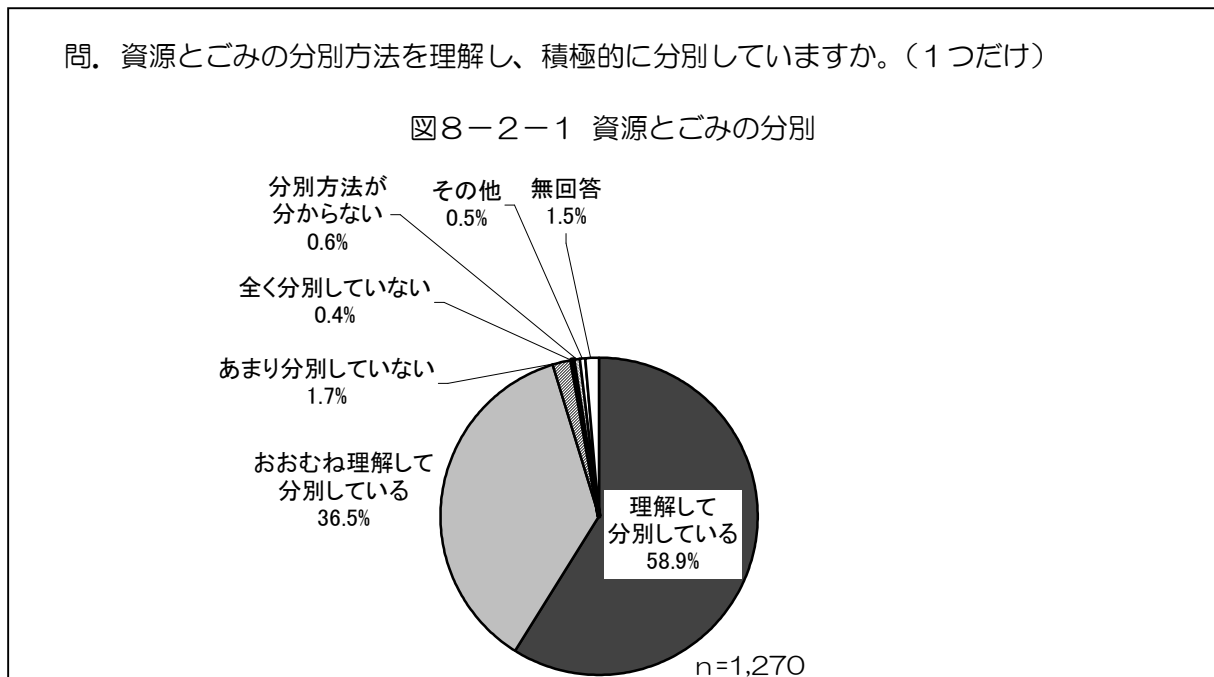
性別にみると、女性では「買い物袋の持参」（17.4％）で、男性より 8.2 ポイント高く、「販売店の過剰包装の削減」（31.5％）で男性より 6.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、70 歳以上で「家庭における資源とごみの分別の徹底」が他の年齢層よりも高くなっている。「販売店の過剰包装の削減」については、20～59 歳にかけて3割台と高くなっている。29 歳以下では「資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実」が3割、「買い物袋の持参」が2 割を超えて、他の年齢層より高くなっている。

表8-1-1 ごみの減量化・資源化の推進—性別、年齢別

(単位：％)	家庭における資源とごみの分別の徹底	資源とごみの分別方法に関する情報提供の充実	ごみ減量化・資源化に関する情報提供の充実	小・中学校への環境学習の充実	環境問題（ごみ減量化・資源化）を学習できる場の提供や施設見学会の実施	行政による住民説明会の開催	買い物袋の持参	販売店の過剰包装の削減	生ごみ処理機等の購入	無回答
全体 (n=1,270)	50.9	24.4	20.2	16.7	13.9	3.9	13.9	28.8	10.4	3.1
男性 (n=556)	53.6	26.8	21.0	16.9	14.4	5.0	9.2	25.4	10.6	3.1
女性 (n=685)	48.8	23.1	19.7	16.5	13.1	2.9	17.4	31.5	10.1	3.1
20歳未満 (n=15)	53.3	33.3	13.3	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	13.3	6.7
20～29歳 (n=100)	46.0	30.0	9.0	17.0	9.0	1.0	25.0	37.0	6.0	1.0
30～39歳 (n=185)	40.5	24.3	20.5	18.9	11.4	1.1	13.5	35.7	13.5	2.7
40～49歳 (n=191)	50.8	26.2	18.8	17.3	11.0	4.7	14.1	31.4	9.9	2.1
50～59歳 (n=186)	47.3	26.9	19.9	16.7	12.4	3.8	13.4	36.6	8.1	1.6
60～69歳 (n=310)	52.3	19.4	23.5	19.0	17.1	5.2	10.3	26.5	11.6	4.2
70～79歳 (n=190)	59.5	24.2	23.2	12.6	18.9	5.8	13.2	16.8	10.0	3.2
80歳以上 (n=76)	67.1	28.9	21.1	7.9	10.5	3.9	14.5	15.8	9.2	7.9

(2) 資源とごみの分別 (A: 問 15)



【全体】

資源とごみの分別について聞いたところ、「理解して分別している」(58.9%)が約6割、「おおむね理解して分別している」(36.5%)が3割半ばとなっており、これらを合わせた『分別している』(95.4%)は9割半ばと高くなっている。

【経年変化】

過去2回の調査との比較では「理解して分別している」、「おおむね理解して分別している」を合わせた『分別している』が9割半ばとなっており、常に高く推移している。

表8-2-1 資源とごみの分別—経年変化

(単位: %)	平成 25 年度 (n=1, 270)	平成 23 年度 (n=815)	平成 21 年度 (n=1, 608)
理解して分別している	58.9	60.2	49.6
おおむね理解して分別している	36.5	36.2	42.8
あまり分別していない	1.7	1.3	0.2
全く分別していない	0.4	0.5	4.0
分別方法が分からない	0.6	0.1	1.2
その他	0.5	0.0	0.5
無回答	1.5	1.6	1.6

【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、「理解して分別している」との回答は、30歳以上で年齢層が高くなるにつれて割合が高くなる傾向になっている。

表8-2-2 資源とごみの分別—性別、年齢別

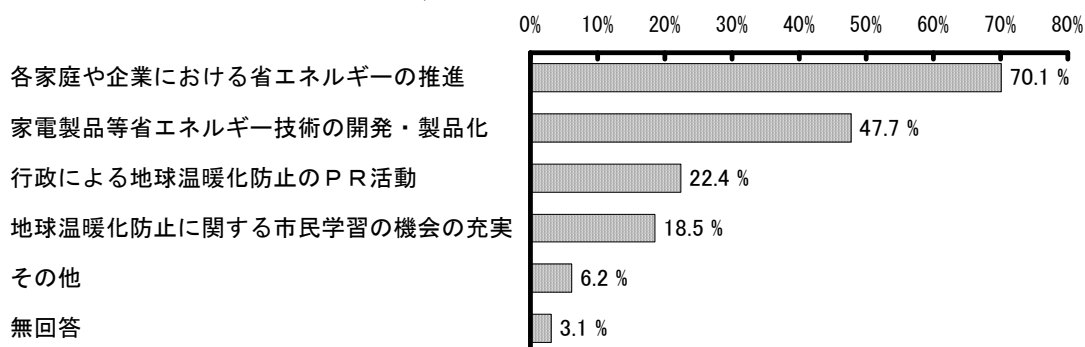
(単位：%)	理解して分別している	おおむね理解して分別している	あまり分別していない	全く分別していない	分別方法が分からない	その他	無回答
全体 (n=1,270)	58.9	36.5	1.7	0.4	0.6	0.5	1.5
男性 (n=556)	59.4	35.4	2.2	0.2	0.9	0.7	1.3
女性 (n=685)	58.0	37.7	1.5	0.6	0.3	0.3	1.8
20歳未満 (n=15)	53.3	26.7	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7
20～29歳 (n=100)	37.0	52.0	5.0	2.0	1.0	3.0	0.0
30～39歳 (n=185)	35.7	57.8	4.3	0.0	0.5	1.1	0.5
40～49歳 (n=191)	52.4	40.3	2.1	1.0	2.1	0.5	1.6
50～59歳 (n=186)	60.2	37.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.5
60～69歳 (n=310)	67.4	29.4	0.3	0.3	0.0	0.0	2.6
70～79歳 (n=190)	76.8	21.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6
80歳以上 (n=76)	76.3	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6

### (3) 地球温暖化防止のための取組 (B: 問8)

問. 地球温暖化防止への取組について、特に必要だと思うものは何ですか。(2つまで)

図8-3-1 地球温暖化防止のための取組

n=1,284



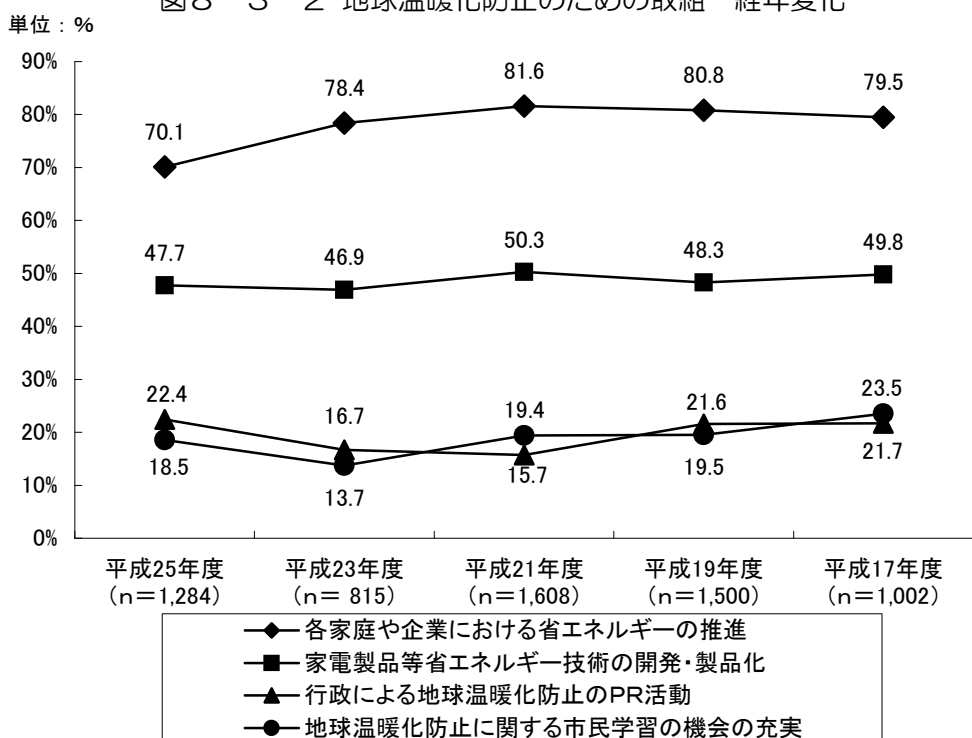
#### 【全体】

地球温暖化防止のための取組について聞いたところ、「各家庭や企業における省エネルギーの推進」(70.1%)が約7割で最も高くなっている。次いで、「家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化」(47.7%)、「行政による地球温暖化防止のPR活動」(22.4%)、「地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実」(18.5%)となっている。

#### 【経年変化】

経年による変化を見ると「各家庭や企業における省エネルギーの推進」は引き続き最も高いものの、平成21年度調査以降は減少傾向にある。その他の選択肢については、大きな変化は見られない。

図8-3-2 地球温暖化防止のための取組—経年変化



【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、70 歳以上では「地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実」、「行政による地球温暖化防止のPR活動」が若い年齢層よりも高くなっているのに対し、「家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化」との項目は、若い年齢層と比べて低くなっている。

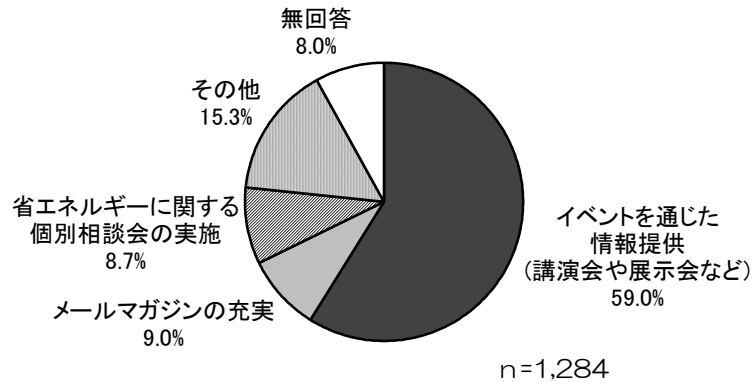
表8-3-1 地球温暖化防止のための取組—性別、年齢別

(単位：%)	各家庭や企業における省エネルギーの推進	家電製品等省エネルギー技術の開発・製品化	行政による地球温暖化防止のPR活動	地球温暖化防止に関する市民学習の機会の充実	その他	無回答
全体 (n=1,284)	70.1	47.7	22.4	18.5	6.2	3.1
男性 (n=560)	67.7	47.9	22.9	16.6	8.2	2.3
女性 (n=697)	72.2	47.8	21.8	20.5	4.6	3.4
20歳未満 (n=15)	73.3	53.3	20.0	6.7	6.7	0.0
20～29歳 (n=126)	68.3	52.4	15.1	15.9	8.7	1.6
30～39歳 (n=170)	79.4	51.2	14.7	14.7	7.1	0.0
40～49歳 (n=224)	69.6	56.7	14.3	19.6	6.3	0.9
50～59歳 (n=176)	70.5	51.7	21.6	17.6	9.7	1.1
60～69歳 (n=276)	71.0	44.6	27.2	20.3	6.2	2.5
70～79歳 (n=204)	65.7	36.3	34.8	22.1	2.5	6.9
80歳以上 (n=73)	58.9	31.5	30.1	20.5	2.7	16.4

#### (4) 地球温暖化防止に関する情報の提供方法（B：問9）

問. 厚木市では、市民の方に地球温暖化防止に関する情報を広報紙やホームページなどで提供していますが、他にはどのような提供方法が必要だと思いますか。（1つだけ）

図8-4-1 地球温暖化防止に関する情報の提供



##### 【全体】

地球温暖化防止に関する情報提供について聞いたところ、「イベントを通じた情報提供（講演会や展示会など）」（59.0%）が6割に近く、最も高くなっている。次いで、「メールマガジンの充実」（9.0%）、「省エネルギーに関する個別相談会の実施」（8.7%）となっている。

##### 【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

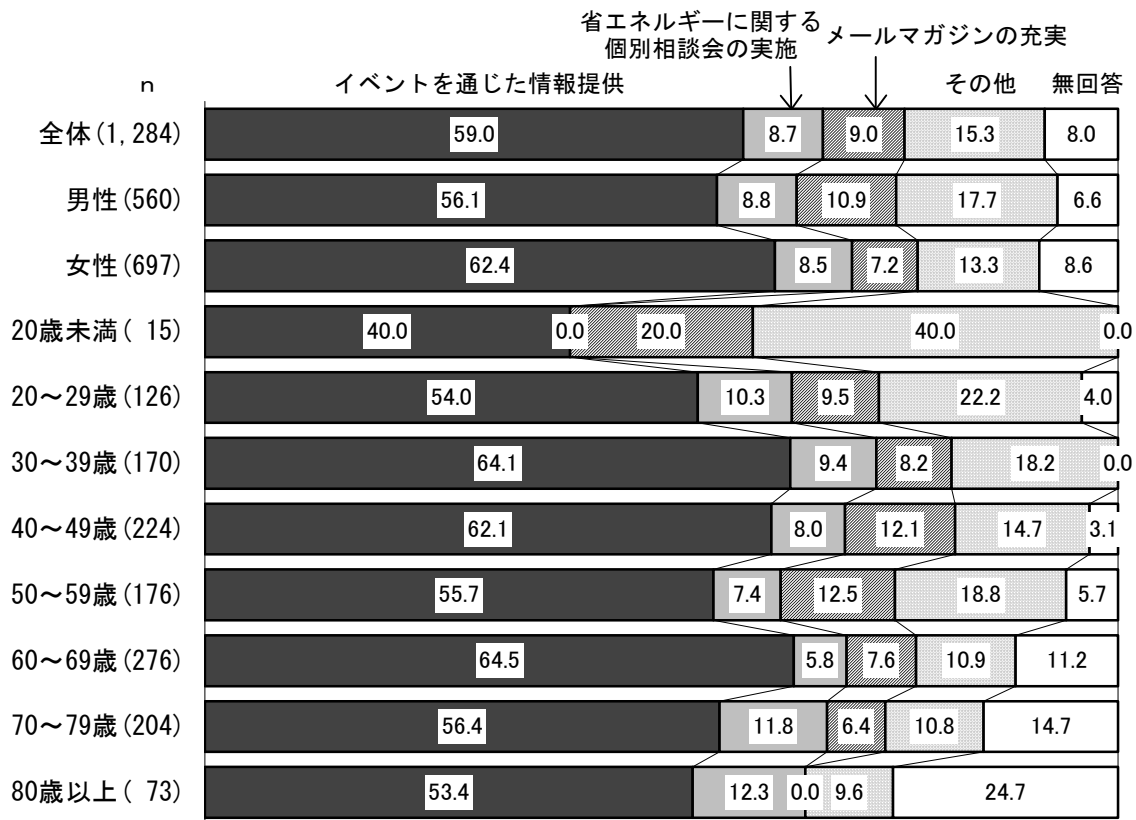


【属性別】

性別で見ると、女性では「イベント通じた情報提供」(62.4%)が男性よりも6.3ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、60歳代(64.5%)、30歳代(64.1%)、で「イベント通じた情報提供」が全体より高くなっている。

図8-4-2 環境問題啓発事業への参加—性別、年齢別



単位：%